

## 学習・意見交換会 「これからの都市農業(東京の農業)づくり」 ～農業者、消費者、行政、研究者と共に～

[日時] 2011年11月22日(金) 10:00～12:35  
 [会場] 東京都生協連会館 3階 C 会議室 [参加人数] 57名  
 [報告者] 内田敏夫氏(東京都産業労働局農林水産部農業振興課長)  
 後藤光蔵氏(武蔵大学経済学部教授)  
 栗原剛氏(JA東京青壮年組織協議会委員長)  
 [主催] 東京消費者団体連絡センター



**【開催趣旨】** 東京の農地や耕地利用率、また担い手は年々減少してきているが、一方、都民の85%が東京に農地・農業を残したいと希望しており、農業・農地の多面的機能や、新鮮で安全な野菜・農畜産物の供給への期待と共に、東京の農業のこれからのことについて消費者としても積極的な関わりが求められています。東京都では新たな農業振興プランの策定が始まり、国でも『都市農業の振興』が「食料・農業・農村基本計画」(H22年)に位置づけられ、その検討が始まりました。そうした中で、農業者・消費者・行政・研究者と共に「これからの都市農業(東京の農業)づくり」をどう進めていけるか、学びあい、意見交換していく場として開催しました。

### <主な講演内容>

#### ①行政からの報告「都民生活に密着した産業・東京農業の新たな展開」(内田敏夫さん) 東京都農林・漁業振興対策審議会答申の概要

##### 第1章 東京農業を取り巻く状況

- ・経済・社会情勢の変化  
 転換に迫られるわが国の農政、揺らぐ食の信頼、都市農業・農地に対する評価の高まり
- ・東京農業の現状と課題  
 地域特性を活かした特色ある東京農業の現状と東京農業が抱える課題

##### 第2章 東京農業の振興方向

- 新たな視点として「東京農業の持つ潜在力を発揮した力強い農業の推進」
- ・東京農業の特性を活かした産業力の強化
  - ・都内産農畜産物の安全・安心の確保と地産地消の推進
  - ・豊かな都民生活と快適な都市環境への積極的貢献



##### 第3章 都市農業・農地に係る制度の改善

- ・都市農業・農地の現状と再評価の動き
- ・都市農業・農地の位置づけの明確化
- ・都市農業・農地の制度の改善

##### 第4章 新たな東京農業の展開を図る体制づくり

#### ②研究者からの報告 (後藤光蔵さん) 東京都農林・漁業振興対策審議会 答申についてのコメント



##### 1. 「都民生活に密着した産業・東京農業」

- ①農業の多面的機能
- ②都市農業の特徴—多面的機能の側面から見て生産機能と同時にそれ以外の多面的機能、その中でも暮らしを支える機能(環境と活動を支える)の比重が大きい。
- ③都市農業を支える基盤は都市住民の理解

##### 2. 現段階の都市農地・農業問題

- その保全と一層の展開のために何が必要か—
- ①快適な都市・豊かな都民生活にとって、必要な土地利用・都市農業は大切、を共通の認識に。
- ②都市農地・農業に対する共通の認識の具体化、理念に基づく制度づくりが今後の課題
- ・都市農業の役割、保全等位置づけの明確化
- ・実現のためには、農業者は東京にふさわしい農業の一層の展開のために努力をし、都市住民の理解がさらに深くそして広くなることが重要。
- ③都市農業者の今後の取り組み・努力
- ・都市農業の展開と都市農業の潜在力の発揮。
- ④都市住民の役割は、支える都市住民を増やす。

**<まとめ>** 農業者・都市住民がそれぞれの役割を果たす取り組みを強めることが、都市に農地・農業を存続させるという共通の認識を制度として具体化していく次の段階には必要。

### ③農業者からの報告（栗原剛さん）

- パワーポイントで直売所「五日市ファーマーズセンター」を紹介
- 東京の農地・農地面積の減少・市街化区域内の農地
- 東京農業の担い手・農家数の減少・認定農業者は増加し、制度に取り組む区市町村の増加 ○各地域の特色ある農業



直売所（五日市ファーマーズセンター）



・都市農家にとって問題は税金、固定資産税・相続税が大きいのしかかっている。税金を払うため畑を一部売却、年間 100ha 減少。税制に関する要望を訴えている。様々な取り組みをし、消費者に農業の理解を頂いている。消費者の協力が無ければなくなってしまう。改正のために一緒に声を出して欲しい。

### <質疑応答から>

- Q. 答申が出され具体的に行政はどういう形をとるのか。都心と農地のある住民との感覚のずれを感じた。
- A. 答申内容を東京農業振興プランづくりに最大限活かしていく。振興プランは2月頃に「案」について都民から意見を公募し、さらに検討して3月末に策定予定。
- Q. 都市には空間が無い、今ある農地の維持が大切、屋上の利用など具体的に施策を出してほしい。発想の転換を。
- A. それぞれの地域を対象にし、都心部対象の屋上・ベランダの緑化などの内容も加える予定。

要望・都市を重点に置いたものとしてのプランに期待する。地産地消、CO<sub>2</sub>削減にもなり環境に良い、貢献や学校給食・防災面（農地に井戸等）などに対し補助金を。

- Q. 東京都の農業生産量は。
- A. カロリーベースで1%、生産ベースで5% 野菜や花きがメイン。



### <会場からの報告>

#### 生活クラブ生活協同組合

- 『都市農業を守り・育てる』取り組み
- ・食べ続けることで都市の農家を支える
  - ・日常的に利用すること、いつも生産者と組合員が話し合い決定の場に参加、日常的に交流・援農・まつりを数多く開催。
  - ・生産者とともに畑を耕す取り組み
  - ・特定非営利法人たがやす発足、農業体験農園、夢都里路くらぶ発足

#### 生活協同組合パルシステム東京

- 「都市農業の取り組みについて」
- ・『登録地場野菜セット』を『予約登録商品』として実施。組合員の自主的な委員会が交流企画を実施。
  - ・『都内の果実・江戸野菜』を供給。
  - ・『産直方針』として「都内の農地保全や地場野菜の利用促進のため、都内生産者と組合員、役職員によるネットワークを広げる体制を構築します」と掲げ、産直協定書を締結。

#### 東都生活協同組合

- ・1991年、グリーンハウス店（小金井市）にて地元生産者の野菜の取扱い開始。
- ・「農のある都市の産直の広場」を基本コンセプトに生命を大切にするみんなの広場としての店づくりを目指す。取り組みが続いているのも生産者との交流のたまもの。

### <その他の資料提供>

○東京都生活協同組合連合会 ○生活協同組合コープとうきょう

○自然派くらぶ生活協同組合 ○東京都消費者月間実行委員会 ○NPOフード・風土

#### アンケートより(回収枚数 33枚)

- 全体的に概ね良かったの回答が約90%だった。
- 感想・ご意見(抜粋)
- ・都市農業の大切さ・価値を再確認することが出来た。
- ・消費者団体や生協が農業の事を理解する手助けをどんどん広げる事に取り組むことは大切だと思う。
- ・卒業論文のテーマで都市農業について研究しています。新たな問題点の発見や多くの地域の人々の声が聞くことが出来、とても勉強になりました。

#### <まとめ>

良い内容の学習会だったと評価いただいたが、都市農業の現状と課題について、行政、研究者、農業者、そして消費者それぞれからの報告をさらに深めるには時間が足りなかった。資料に掲載した都内の消費者団体や生協の取り組みについて会場発言は限られたが、今後も消費者と農業者・関係者との交流や、いろいろな取り組みをさらに広げ強めるなど、消費者の主体的な関わりが求められている。答申内容が具体化される振興プランに意見を出していきましょう。